

地球温暖化対策の中期目標に関する 国民的議論の結果概要

2009年5月24日(日)
内閣官房

1. 意見交換会

4月20日からおよそ1ヶ月にわたり計6回の意見交換会を実施。

(4 / 20 東京 4 / 21 名古屋 4 / 22 大阪
5 / 11 札幌 5 / 12 福岡 5 / 13 東京(追加開催))

来場者：約 1000 名

意見表明：108 名

() 4月20日の東京会場には、斉藤環境大臣、高市経済産業副大臣も参加

(1) 意見表明の概要

選択肢 (2005年比 - 4%、1990年比 + 4%) 又は選択肢 (2005年比 - 30%、1990年比 - 25%) を支持する意見が多数あった。

(2) 主な意見

(選択肢 を支持する主な意見)

- 国際競争力確保、炭素リーケージ防止のため、米・EUなどと公平な目標値とすべき。
- 米中印など主要排出国の参加が必須。京都議定書のような資金の海外流出を招いてはならない。
- 実現可能性の精査が必要であり、経済的に過度な負担が生じる選択肢はとるべきではない。

(選択肢 を支持する主な意見)

- 地球温暖化防止のために排出削減を進めることが、科学の要請。
- 途上国の参加を促すような国際的リーダーシップを発揮するため、野心的目標を掲げるべき。
- 未来世代に過度の負担を残さないためにも、現在の世代が率先して取り組むべき。

(選択肢 ~ 、その他を支持する主な意見)

- 国際的公平性を重視しつつも、国際的なリーダーシップを発揮するべき。

2. パブリックコメント

4月17日(金)～5月16日(土)の1ヶ月間、パブリックコメントを実施。計 10671 通(速報値)の意見提出があった。

(1) 結果概要

選択肢 (2005年比 - 4%、1990年比 + 4%)	・・・	<u>7,937 通 (74.4%)</u>
(2005年比 - 6～ - 12%、1990年比 + 1～ - 5%)	・・・	<u>515 通 (4.8%)</u>
(2005年比 - 14%、1990年比 - 7%)	・・・	<u>111 通 (1.0%)</u>
(2005年比 - 13～ - 23%、1990年比 - 8～ - 17%)	・・・	<u>41 通 (0.4%)</u>
(2005年比 - 21%、1990年比 - 15%)	・・・	<u>61 通 (0.6%)</u>
(2005年比 - 30%、1990年比 - 25%)	・・・	<u>1,389 通 (13.0%)</u>
複数の選択肢に言及	・・・	<u>113 通 (1.1%)</u>
その他の意見(数値への言及なし)	・・・	<u>504 通 (4.7%)</u>

(2) 主な意見

別紙1を参照

(なお、パブリックコメントに関する詳細な結果については後日公表予定)

3. 特別世論調査

5月7日(木)～5月17日(日)にかけ、無作為抽出による世論調査を行った。

調査の概要、調査結果について別紙2を参照。